



# 中高生とともに差別と闘う

## 賞味期限：なし

吉成タダシ（うずしおブランチ代表）



心のよりこころ

小学校、中学校時代と通っていた学習会に思いを馳せ、語り始めたシンジ。言いたいのに言えない葛藤をずっと抱え続けていた学習会についての話は、意外な展開を見せます。

\* 今日ね、来る前にね、ちよつと早く出て、ボクが通ってた学習会場に娘と行ってきました。

\* えつ、と思わず視線がシンジに寄りました。彼の覚悟を、あらためて実感します。

\* 現場にね。パパのルーツを知ってもらおうと思つて。もしかしたら壊されてるんじゃないかなと思いがちに行つて。

娘に、「ここで実はお化け見てなつて言つて。塾はこつちにあるんよつて。お化けのところも見て、学習会の方にも行つて。学習会の会場に着いて降りて、ここでサッカーしたりとか、小学校の先生が来てとか、そういうやりとりをしながら、ここで勉強してたつて。」

\* 懐かしい思い出。思い出の場所。誰しも、そんな場所があるのではないのでしょうか。それは、いくら言葉尽くしても人に伝わるものではないかもしれません。そして、消えてなくなつても、記憶のなかにずっと残り続けるかけがえのない、誰にも侵すことのできない聖なる領域。

実はこの後日、私もその場に立ちました。懐かしさで。シンジにとつての思い出の場所は、私にとつての思い出の場所でもありません。道路から少し外れた小さな川沿いにあるその平屋の建物は、すでに何年も使われてないかのよう古びていました。バスケットボールコート半分くらいの広場には草が生い茂っていました。当時五つあった学習会場のなかでも最も小さな会場でした。週に二回夜、集まってくる中学生は多くて二人。

一人のときがたいの、本当に小さな学習会場です。いつ誰も来なくなつてもおかしくないような状況であるにもかかわらず来る、誠実な姿。そこには、寂しくともあたたかい空気が流れていました。

賞味期限：なし

結局、娘に何を伝えたいか、みんなにも何を伝えたいかについて、抱えてる問題についてのは人それぞれ違うと思うんです。ボクは同和問題、部落差別についてとことろでずつときたけれども、この学習会をすることによってつな

がれた人つてすつごく多いんですよ。ホントにそう。こういうところをつながつた仲間つて、ずつとつながつてるんですよ。それがすごい誇りです。しんどいときに、ものが言えるんです。相談にも乗れる。しかも期限がなくて、十年たつてようが二十年たつてようが、成立してしまつていうのが、すごいことなんです。言いたいこと

が言えて、抱えることもちゃんと言えて。ちゃんと向き合つてくれるつていうのが、この会の素晴らしさ。しんどいことを言うことの大切さつていうのを教えてくれるつていうのは、こういう場。ボクたちにとっては中学校の全体学習とかがそうだった。それぐらいすごく大事にしてる学習なんです。

\* これは少しでも実感した人でないと分からないかもしれない、と思ふことが、先生方を見ていてよくあります。部落差別の存在を教えられる、と勘違いしているように感じることもあるのです。それでは差別のばらまきにつながらかねません。そうではなくて、部落差別を通して、どのような人間関係性をめぎすのか、どのような社会をめぎすのかを真剣に考え、実感できる学習にまで高める必要があるように思ふのです。

あつて良かった

中学生集会でのシンジの語りも、いよいよ終わりとなります。

\* 部落差別は絶対あつてはならないんです。あつてはいけないことなんだけど、あつてはいけないなら、やらなければいじやない。やるから残るつてなるかも分らないんだけど、そんなわけないつて。なくしたことになるつてしまつたらダメだと思ふし、自分たちはその差別に向かつて闘い続けたいといけないし、絶対に負けてはい

けないと思つています。

\* ここまでの思いにさせた責任の一端が、私にはあります。地区の保護者や社会的なニーズのうえで、小中学生に「部落」という立場を知らせたといえ、それにかかわつた人には道義的な責任が生じます。その責任は重大です。役割が終わつたから、退職したから、で済む問題ではありません。

「あなたは部落出身ですよ」と言つておいて、そのあと飛び退くというの、どう考えてもおかしいでしよう。言うからには最後まで責任を持たないと。どう責任を持つのか。かわり続ける、なくし続ける、どこまでも歩き続ける、これしかないと思ふます。私の場合はそれが責任とか義務でなく、こういつた、人とかかわりが好きで、いきがいとつてつてるわけですが。

部落差別はあつてはいけない、という議論をしていると、部落問題学習もなくなればい、となることがよくありました。この議論を中学生が展開していくのですが、決まつていつも、最後の着地点は、「差別はあつてはいけないが、この学習はあつて良かった」でした。この学習と出会つてなければ、自分も差別者になつていたかもしれない。しかも、人と出会うことの大切さや必要性を知ることができた。これには私もおおいに共感しました。教師である前に、まず、「人」として。